

知財 AI エージェント導入による知財部変革の提案

オムロンと島津製作所の事例から学ぶ、次世代知財戦略の構築

作成者: Manus AI 作成日: 2026 年 6 月 27 日

1. はじめに

近年、生成 AI の進化により、企業の知的財産（知財）部門における業務プロセスが劇的に変化しています。特に、特許調査や明細書作成、他社特許のクリアランス調査など、高度な専門知識と膨大な時間を要する業務において、AI の導入が大きな成果を上げています。

本資料では、知財 AI 活用において国内のトップランナーであるオムロン株式会社と株式会社島津製作所の取り組みを詳細に比較・分析します。両社の成功事例から導き出されたベストプラクティスをもとに、知財 AI 導入を検討している企業様に対し、実践的かつ効果的な導入ステップと戦略を提案します。

2. 先進企業の知財 AI 活用事例

2.1. オムロン株式会社の取り組み

オムロンは、研究開発部門のエンジニアが自ら特許取得に関する作業を担当するケースが多く、その負担軽減が課題となっていました。これを解決するため、同社は 2023 年に全社横断の生成 AI 活用推進プロジェクト「AIZAQ」を立ち上げ、研究開発に特化した生成 AI 基盤「RD Buddy」を構築しました [1]。

この基盤上に実装された「知財 AI エージェント」は、特許庁の過去データを全て Amazon S3 に格納し、Amazon Bedrock や Amazon OpenSearch Serverless を活用した独自のシステムです。自然言語による特許検索や、関連特許の詳細な分析レポートの自動生成、さらには発明説明書の作成支援などを可能にしました [1] [2]。

同社は、知財業務の約 8 割をプロンプト化して AI に任せる方針を掲げています。2026 年 1 月頃からエンジニア向けに本格活用を開始した結果、先行技術調査と発明説明書の作成にかかっていた業務の工数を少なくとも 50%削減することに成功しました [2]。

2.2. 株式会社島津製作所の取り組み

島津製作所は、2023 年からの 3 か年計画で「知財力 50%向上、業務量 30%削減」を目標に掲げました。同社は、社内専用の生成 AI 環境「島津 ChatGPT」を構築し、知財部門主導でプロンプトドリブンな業務改革を推進しました [3]。

同社の知財部門は、「ロジック化可能な知的労働は生成 AI に置換する」「ベテランの思考プロセス（暗黙知）を AI のプロンプトに変換する形式知化」という方針のもと、独自の知財業務自動化プラットフォームを開発しました。このプラットフォームは、発明届出のための書類作成作業のほとんどを生成 AI に任せ、開発資料を読み込ませるだけで自動で社外の関連特許を集め、侵害判定を行い、書類を完成させます [3] [4]。

この取り組みにより、同社は年間 8,000 万円の外部委託コスト削減、発明届出業務の工数 50%削減、他社特許スクリーニングにおける手作業の 90%削減という驚異的な成果を上げました。さらに、この成功ノウハウを外部に提供するため、2026 年 4 月に子会社「株式会社 Genzo AI」を設立し、同プラットフォームの SaaS 提供を開始しています [4] [5]。

3. オムロンと島津製作所の比較分析

両社はともに「知財業務の 50%以上の工数削減」という大きな成果を上げていますが、そのアプローチには明確な違いがあります。以下の表に両社の特徴を比較整理します。

比較項目	オムロン株式会社	株式会社島津製作所
主なアプローチ	RAG（検索拡張生成）技術を駆使した AI エージェント開発	熟練者の暗黙知を形式知化するプロンプトドリブン改革
技術基盤	AWS（Amazon Bedrock 等）を用いた内製クラウドアーキテクチャ	社内クローズド AI 環境（島津 ChatGPT）
推進の主体	エンジニアリング主導（デジタルソリューション部門）	知財部門主導（プロンプトエンジニアリングの徹底）
主な対象ユーザー	研究開発部門のエンジニア	知財部員および発明者全般

比較項目	オムロン株式会社	株式会社島津製作所
展開戦略	社内業務の効率化・高度化に特化	社内活用で成果を実証後、子会社（Genzo AI）を設立し外販
定量的成果	先行技術調査・発明説明書作成の工数を 50%削減	外部委託コスト年間 8,000 万円削減、特許スクリーニング手作業 90%削減

オムロンが高度な IT 技術を駆使したシステム構築（RAG 等）に重きを置いているのに対し、島津製作所は知財専門家ならではの思考プロセスを AI への指示（プロンプト）に落とし込むことに注力しています。どちらのアプローチも、最終的には「人間の専門知識と AI の処理能力の融合」を目指している点で共通しています。

4. 知財 AI 導入における成功要因と課題

先進企業の事例および業界全体のトレンドから、知財 AI 導入を成功に導くための要因と、直面しやすい課題が明らかになっています。

4.1. 成功要因（ベストプラクティス）

知財 AI 導入を成功させる企業には、以下の共通する要因が見られます。

- 経営層の強力なコミットメントと知財部門の主体性:** トップダウンでの推進と、現場の専門家（知財部門）が自ら AI 活用を主導するボトムアップの取り組みが融合していることが重要です。
- セキュアな環境の構築:** 未公開の発明情報など機密性の高いデータを扱うため、社内クローズド環境や VPC エンドポイントを活用したセキュアな AI 基盤の構築が不可欠です。
- 「Human-in-the-loop」の徹底:** AI を万能な自動化ツールとしてではなく、専門家の能力を拡張する「パートナー」として位置づけ、最終的な法的判断や品質確認は必ず人間が行う運用ルールを定めています。
- 業務プロセスの徹底的な棚卸しと形式知化:** AI を導入する前に、既存の業務プロセスを細分化し、どの部分を AI に任せるか（プロンプト化できるか）を見極める作業を行っています。

4.2. 導入における主な課題

一方で、導入にあたっては以下の課題に対処する必要があります。

1. **ハルシネーション（誤情報生成）のリスク:** 生成 AI が事実と異なる特許番号や技術内容を出力するリスクがあるため、出力結果に対する厳格なファクトチェック体制が求められます。
 2. **AI リテラシーの組織内格差:** プロンプトの書き方一つで AI の出力品質が大きく変わるため、組織全体での継続的な教育プログラムやプロンプトの共有の仕組みが必要です。
-

5. 貴社への知財 AI 導入提案

オムロンおよび島津製作所の成功事例を踏まえ、貴社における知財 AI の導入ステップと戦略を提案いたします。

5.1. 導入ステップ

知財 AI の導入は、一足飛びに完全自動化を目指すのではなく、段階的に適用範囲を拡大していくアプローチが推奨されます。

フェーズ 1: 基盤構築と特定業務での PoC（1～3 ヶ月） まずは、情報漏洩リスクのないセキュアな生成 AI 環境を構築します。その上で、先行技術調査の要約や、アイデア出しの壁打ちなど、リスクが比較的低く効果が見えやすい特定業務に絞って PoC（概念実証）を実施します。

フェーズ 2: 定型業務のプロンプト化と運用ルールの策定（3～6 ヶ月） 島津製作所のアプローチに倣い、熟練の知財担当者の思考プロセスを分析し、特許明細書のドラフト作成や拒絶理由通知の要約など、定型的な業務をプロンプト化（形式知化）します。同時に、「AI の出力は必ず人間が確認する」という Human-in-the-loop の運用ルールを確立します。

フェーズ 3: 社内データ連携と全社展開（6 ヶ月～） オムロンの事例のように、社内の技術報告書や過去の特許データと AI を連携させ（RAG の構築）、より高度な検索や分析を可能にします。また、知財部門だけでなく、研究開発部門のエンジニアにも AI ツールを展開し、全社的な発明創出プロセスを加速させます。

5.2. 期待される導入効果

本提案に基づく知財 AI の導入により、貴社は以下の効果を期待できます。

1. **圧倒的な業務効率化とコスト削減:** 特許調査や書類作成にかかる工数を半減させ、外部委託費用を大幅に削減します。

2. **知財部門の高付加価値化:** ルーチンワークを AI に代替させることで、知財担当者は IP ランドスケープ分析や出願戦略の立案など、より戦略的で高付加価値な業務に注力できます。
 3. **属人化の解消と人材育成の加速:** ベテランのノウハウがプロンプトとして形式知化されるため、若手社員でも早期に一定水準の業務を遂行できるようになります。
-

6. おわりに

生成 AI は、知財業務のあり方を根本から変えるポテンシャルを秘めています。オムロンや島津製作所のように、この技術を早期に、かつ戦略的に取り入れた企業は、すでに圧倒的な競争優位性を築きつつあります。

貴社におかれましても、本提案を契機として知財 AI の導入に向けた第一歩を踏み出し、次世代の知財戦略を構築されることを強く推奨いたします。導入に向けた具体的なシステム選定やプロジェクト体制の構築につきましては、引き続き全力でサポートさせていただきます。

参考文献

[1] AWS. “知財業務を革新するオムロンの知財 AI エージェント実装事例”.
<https://aws.amazon.com/jp/builders-flash/202511/omron-intellectual-property-ai-agent/> [2] 日経クロステック. “オムロンが Bedrock 活用で知財 AI エージェント内製、特許関連工数を 50%減”.
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03664/062600003/> [3] 島津製作所. “知的財産業務を自動化し、科学技術の未来に貢献する”.
<https://www.shimadzu.co.jp/today/20260615-1.html> [4] 島津製作所. “知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立 当社知的財産部の独自開発プラットフォームを 4 月から社外へ提供”.
<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html> [5] MONOist. “年間 8000 万円のコストを削減した知財業務自動化 AI を外販、特許申請を高速化”.
<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2604/02/news040.html>